

地域周産期医療センター (新生児集中治療室)

●スタッフ (平成28年10月1日現在)

センター長 井坂 恵一

医師数 産科医 6名
 小児科医 8名

●診療科の特色・診療対象疾患

本学の地域周産期母子医療センターは、9階東病棟の産科病棟(26床)、10階東病棟のNICU(12床)および新生児病棟GCU(14床)からなり、NICUの病棟医長以下8名の小児科医および産科班班長以下6名の産婦人科医が、緊密な連携をとりつつ周産期に関わる高度な医療を担っている。また、当院は総合病院であり、糖尿病、甲状腺疾患、血液疾患、心疾患および悪性腫瘍など主に内科的疾患合併ハイリスク妊婦に対して、当該内科専門医と協力し高度な周産期医療を提供してきた。そして、産科、小児科および小児外科の連携のもと、ハイリスク妊婦からの出生児、低出生体重児および手術が必要な新生児などに対して集約的な医療体制を整えている。産科診療所やNICUのない総合病院からのハイリスク妊婦や分娩後出血など救急処置を要する妊婦・褥婦の搬送を、積極的に受け入れ地域に貢献している。主な診療対象疾患は、切迫流産、多胎妊娠、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病、甲状腺疾患合併妊娠、血液疾患合併妊娠、心疾患合併妊娠、悪性腫瘍合併妊娠、産後出血などである。

●診療体制と実績

当センターの緊急母体搬送受け入れ数は、平成11年度26件、平成21年度39件、平成28年度79件と年々増加している。また、院外からの新生児搬送受け入れ数は、平成10年度62件、平成20年度79件であり、平成28年度は110件と大幅に増加し、都内の周産期センターの中でも屈指の受入数を誇っている。さらに、可能な限り小児科医師同伴のお迎え搬送(約70件/年)を行うことで、患児や搬送元施設の負担減を図っている。平成28年度の産科病棟のべ入院患者数は7855名、NICUのべ入院数は4375名、GCUの述べ入院数30177名であった。